

東溪中学校だより

令和6年度1学期最終号

遅い梅雨入りから、想定をはるかに超えるスピードで、災害警戒レベルが急上昇しています。日頃は豊かな自然に恩恵をいただく本校でも、分刻みの気象情報を「睨み」ながら、安全・安心な学校の維持に努めています。加えて、この場を借りて、常日頃から即時的に必要な情報提供、支援をきめ細かにいただいている本市教育委員会事務局をはじめ、関係部署、保護者、地域の皆さま、あらためて衷心より感謝申し上げます。

1. 1学期の学校の運営状況から

本年度当初、学校経営の屋台骨となる「グランドデザイン」や、学校運営で特に重点的に取り組む項目を示した「学校評価の4点セット」をHPに掲載しました。6月初旬に全職員で取組の「検証・改善」を行い、成果に結びつくと思われること、改善すべきこと等を整理し、現在1学期末の総括に向け、全校の職員・生徒・家庭・地域での“総力戦”を行っているところです。生徒アンケート調査や成果物等をエビデンスとし、以下抜粋して簡潔に進捗状況を示します。



①教科等で必要な語句・表現の習得

【成果】「授業では根拠や理由を明確にして相手に伝わるよう表現している」肯定的回答は93.7%。

【課題】上記について「質」の担保（発言内容が論理的、適切であること）が十分ではない（教員評価）

②習得語彙を活用し、自分の考えを言語化し発信する力の育成

【成果】「振り返り」を可視化し、生徒同士で共有し工夫する雰囲気がある（生徒・教員評価）

【課題】記述方式での、得意、不得意も見られることから「話す」手段もありでは？（改善策）

③多様な意見や考えを受け止め、よりよく生きようとする生徒の涵養

【成果】授業で小集団活動やペア活動を有効に取り入れ、生徒の自己有用感の高まりがある（生徒評価）

【課題】「あなたは、授業で活躍し、充実していると思いますか。」肯定的回答は71.9%（生徒評価）

2. 6月中旬から2学期へ向けての進捗状況、今後の方向性

①「振り返り」のさらなる充実

授業では「めあて」に対して、何を学んだか？ 過去の自分と比べてどう変わったか？ どんな成長をしたか？あるいは、更に探求すべきことは何か？ この学び方は自分の未来に役立つイメージか？ 等々

いろいろな“角度”で生徒が（教員も）検証することにより、持続的な学びや「学び方を学ぶ」ことに近づきます。現状は「書く」ことで共有しますが、「話す」など他にもアウトプットする方法を模索してみてもいいかとまさに全校で「模索」しています。



②「自立した学習者」とは？

授業と家庭学習を一体化することを手段の一つと捉え鋭意取組中です。しかし、今回の中間評価では、まず、基礎的な「知識・技能」の充足から「つまづき」が見られます。キュビナ利用度は非常に高いですが、知識→技能に繋がるイメージまでは到達していません。タブレットを使い、家庭でも保護者のご感想やご意見を書いてもらう、あるいは、授業内容を子どもがお家の方に紹介する活動（プレゼン）！？など、も考えつつ、試行錯誤しています。